

よこさわいり
横沢入（あきる野市）
里山の小さな生きもの



横沢入里山保全地域では、田んぼが広がる懐かしい風景が残っています。こうした里山の環境には生きものがたくさん暮らしています。田んぼの中にはイナゴや、それを食べようとするカマキリがやってきます。水がたまった田んぼでは、卵を産むためにシオカラトンボやミヤマアカネが集まってきます。田んぼの一角にはツリフネソウがたくさん咲いており、昆虫たちの格好の住処になっています。

【見られる生きもの】

コバネイナゴ	水田などでイネをかじっている姿がよく見られます。
ニホンアカガエル	里山の水田周辺などでみられ、生息を守るためにはこれらの環境を守ることが必要です。
シオカラトンボ	オスが塩を吹いたような青白い体をしていることから、シオカラと名づけられました。
ミヤマアカネ	「赤とんぼ」とよばれるうちの一種。区部では生息環境の減少で、見かける機会が激減しています。
ツリフネソウ	水辺や田んぼなどの湿った環境を好む植物ですが、区部などでは減少しています。
ヒメクロホウジャク	成虫は空中でホバリング（一点にとどまる飛び方）しながら花の蜜を吸います。
ナナホシテントウ	植物につくアブラムシを食べます。春から秋まで畑や草地などで見られ、成虫で冬を越します。
ノハラアザミ	草地などに生えます。花に虫などが触れることで、その刺激により花粉を出します。
ツマグロヒョウモン	かつては西日本で多いチョウでしたが、近年東日本でも増え、都内の街中でもよく見られます。
オオウラギンスジヒョウモン	草原などに生息していますが、こうした場所が減ってきています。これらの環境を守っていくことが必要です。



ニホンアカガエル



ツマグロヒョウモン

水田やその周辺は生きものたちの大切なすみかになっています。こうした里山環境は、継続した手入れが必要です。また、手入れが放棄されてしまったような場所でも、適切な努力がされれば、再び生きものたちが戻り、豊かな環境を回復させることができます。